

富山県 認定薬局等の整備促進事業

<目的>

- ・ 令和元年度事業で実施したトレーシングレポート(TR)の運用をさらに発展させ、他職種が関わる事例で円滑に情報連携ができるよう、様式や運用方法の改善を行う。
- ・ 富山県では、入退院時の情報連携体制や、医療機関のがん治療医師・薬剤師と薬局薬剤師が情報交換を行う機会や方法が構築されていないことが認定薬局普及の障害となると考えられることから、「入退院時の情報を医療提供施設と共有する体制」や「がんに対する高い専門性を持つ薬剤師の配置」を満たすことのできる環境構築を行う。

取組

※ ①～③は公益社団法人富山県薬剤師会に再委託して実施した。

① TRによる薬局と病院又は診療所等との情報連携拡大

- 昨年度に作成したTR様式を富山県薬剤師会HPで公開し各関係団体（郡市医師会、県内病院長等）へ周知を行った。
 - ・ 令和2年7月 富山県薬剤師会HPで公開
 - ・ 令和2年7月～10月 各関係団体へ周知を実施
 - 情報連携に関する薬剤師の資質向上のための研修会を実施した。
 - ・ 令和2年9月～令和3年1月 延べ10回開催
 - ・ 参加薬局数：208薬局（県内保険薬局の44.3%）
 - 県内保険医療機関医師、保険薬局へアンケートを行い、情報連携状況や関係機関（団体）からの評価を確認した。
 - ・ 回答数 医師：211名 薬局：279薬局
 - ・ 情報連携を行った薬局数：193薬局（69.1%）
- ※令和元年度に情報連携を行った薬局の割合は52.2%

③ がん薬物療法を受けている患者を支えるための関係職種と連携した研修会の開催

- 関係職種と連携した研修会を実施した。
 - ・ 令和2年8月～令和2年12月 延べ4回開催
 - うち1回は栄養士会と連携した研修会を開催
- ※歯科医師会と連携した研修会も計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により延期とした。
- ・ 参加薬局数：176薬局（県内保険薬局の37.4%）

② 患者の入退院時における情報連携の仕組みの構築

- 富山県薬剤師会において「入院時薬剤情報提供書」と「施設間薬剤情報連絡書」の様式を作成し、県内病院の入退院支援センターや地域連携室に周知を行い、試験運用を開始した。
 - ・ 令和2年7月 富山県薬剤師会HPで公開
 - ・ 令和2年7月～10月 各関係団体へ周知を実施
- 県内病院の入退院支援センターと地域連携室及び薬局へアンケートを行い、様式の使用状況や評価を確認した。
 - ・ 回答数 病院：5病院 薬局：279薬局
 - ・ 病院より入院患者の服薬情報提供依頼があった際に迅速に情報提供ができる準備ができている薬局数：122薬局（43.7%）
 - ・ 情報提供を行った薬局数：44薬局（15.8%）
- ①の研修会において、県内保険薬局薬剤師へ周知を行った。
 - ・ 令和2年9月～令和3年1月 延べ10回開催
 - ・ 参加薬局数：208薬局（県内保険薬局の44.3%）

④ 連携協議会の開催

- 関係団体の代表者と連携を図り、事業内容の検討や、意見交換会を実施するため、連携協議会を開催した。
 - ・ 第1回協議会 令和2年9月7日開催
 - ・ 第2回協議会 令和3年3月1日開催

今後の課題等

- ・ ①のアンケート調査より、TRの書き方や不適切な内容等が見られるとの意見があり、TRの質の向上が課題である。また、返書や変更がない場合、医師がTRを受け取っているかどうかの確認ができないなど、連携体制の構築が不十分であることも課題である。
- ・ ②の事業実施中に、病院より情報提供依頼をした薬局が状況を把握できず、情報提供内容が不十分であったという連絡があった。対象病院地区の薬局には依頼時の対応方法等について注意点をまとめたものを案内することで対応したが、このような問題は他にも生じていると考えられる。また、今年度情報提供を行った薬局数は44薬局（15.8%）であり、各地区で研修会等で対応の周知や事例提示等が必要である。
- ・ ③については、研修参加薬局数が半数以下であり、参加薬局数の拡大が課題である。また、処方医師以外の関係他職種との連携も課題と考えられる。